治猫犬病、以烏藥汁灌之、以下藥方、出菜竹堂簡便方、

治猫犬生癩、用桃樹葉搗爛遍擦其皮毛、隔少時洗去之、

治狗猫生虱、用白色朝腦滿身擦之、以桶或箱覆蓋之、少時放出其虱俱落、生癬疥者、好茶濃煎、過夜冷洗之、

凡狗舌出而尾垂者、卽風狗也、人被之咬、用木鱉子七個、檳榔二錢、水二鍾、煎七分、服、秘笈云、碎杏仁、納傷處、卽愈、所謂風狗、卽猘犬也、保嬰全書云、凡猘犬之狀必吐舌流涎、尾垂眼赤、誠易辨、如所咬則毒甚、

〔重修本草綱目啓蒙三十三畜〕狗寶　イヌノタマ

狗ノ腹中ニアル石ナリ、牛馬ノ鮓答ト同ジ、亦狗ノ病也、故ニ狗寶生癩狗腹中ト云、凡狗瘦セ毛落皮ノミニナリシ腹中ニアリ、故ニ留青日札ニ、凡狗有寶則羸瘦、毛落不勝、其熱入水自濡、其塊如栗、同胞破之可千葉、入藥治毒瘡ト云、五雜俎ニ、又有一種狗、不飲不食、常望月而嗥者非瘈也、乃肚中有狗寶也、寶如石、大者如鵞卵、小如雞子、專治噎食之疾ト云フ、形ハ馬ノ鮓答ヨリ小ク、馬錢ノ形ニシテ白色微青、或ハ灰色微黑、圓ナルモ扁ナルモアリ、碎ケバ內ハ皮ノミ多ク重リ、鮓答ニ異ナラズ、本經逢原ニ、擊碎其理如蟲、白蠟者眞ト云ハ、ソノ層疊ノ狀ヲ云ヘルナリ、

〔古老口實傳〕一犬具參事禁之○中略

一飼犬事、不淨基、鬪諍種也、更无其要者哉、

〔古今著聞集十六興言利口〕一條二位入道能保のもとに、下太友正と云隨身おさなくよりみや仕へけり、禪門天下執權の後、諸大夫侍おほく初參したりけるに、此友正我ひとりこそ、年頃の者にては侍れとて、一座をせめけるを、傍輩ども惡む事限りなし、去程に其近邊に事なのめならず、人くふ犬有けり、侍共寄會たりけるが、其犬とりてんやと、何となく云出したりけるに、友正やすく取てんといひけるを、傍輩共よきつゐでにくはせんと思て、皆一方に成てあらがひてけり、友正云やう、

犬害